



評価についての方針

Assessment Policy



幼保連携型認定こども園

大利根育英幼稚園

OTONE IKUEI KINDERGARTEN

目次

中村学園の使命と教育理念	1
評価の目的	2
評価の種類	2
評価の方法	3
評価者の権利と責任	3
評価のツール	4
情報共有の方法	5
評価基準	6
参考文献	7
更新	8

《Mission statement・育英の使命》

育英＝天下の英才を育てる

！人！人がもつ能力、才能を見出し、その才能を活かし育てます

他者との違いを認め受け入れ、自分も他者も大切にし、感謝の気持ちと共感する心を持ちながら、自己の探究心を掘り下げます。そして、平和でより良い地球と共存するために、国際的視野を拡げ、学び挑戦し続ける子どもに育成します。

《中村学園の教育理念》

【明るく】

明るい挨拶ができ、自信をもって自分自身を表現する

友達と楽しく遊び、協力しながら新しいことに挑戦する

好奇心と探究心を持ち熱意をもって学ぶ

【正しく】

人がもつ違いを理解し、自分と異なる考えの人々にもそれぞれ正しさがあると認める

人に共感できる心と思いやりの心をもつ

正義感と自分の考えの軸をもつ

【健やかに】

身心ともにたくましく生きる力をもつ

自然に親しみながら豊かな感性をみがき、この地球と共存する意識をもつ

安全で栄養価の高い物を食べる（オーガニック給食）

【学ぶ】

知っていることや学んだことを使い、世の中の役に立つために行動する

よりよい行動につながるようによく考えたり、新しいアイデアを考える

もっと良くなるための方法を見つけ、行動に移す気持ちをもつ

《評価の目的》

評価は、子どもの成長を促し、持続的に向上する生涯学習者としての意識を確立させ、自己効力感と幸福感を得るための重要な手段です。当学園では、子ども、教師、保護者からなる学校コミュニティ全体で、中村学園の教育理念である「明るく」「正しく」「健やかに」「学ぶ」を基盤とした子ども達の学びの過程と成果を理解し、国際的な視野をもつ人間として、より平和な世界を築くことに貢献する人間となるために、IBの「10の学習者像」という目標に向かって挑戦している子どもたちの支援をするを目的としています。

《評価の種類》

【継続的評価】

継続的評価は、探究活動における目標を達成するにあたり、通過すべきチェックポイントでの評価です。それぞれのチェックポイントにおいての子どもの理解度、達成度、興味関心を確認するために行います。そして、教師もその結果から指導方針の軌道修正が可能となります。また、子ども自身の学びについて振り返る自己評価と、友達からの評価による“子ども相互評価”に取り組みます。更には、教師や保護者からの評価により、子ども自身が、自分の学びがどのように進んでいるのかを見極め、次に始まる学びに意欲を持ち、自分が何を知りたいのか、何を理解することが目的なのかを明確にすることができるようになります。

【総括的評価】

総括的評価は、セントラルアイデアにおける学習の達成度を明らかにするための評価方法です。子どもは、自分自身の努力の結果や成果、何をどれくらい理解したのかを知ることができます。また、学びの過程でどれだけ「10の学習者像」に近づくことができたかについて、知ることができます。教師は、振り返りにより改善点に気づき、また、子どもや、他の教師や保護者、などコミュニティ全体

からの情報を得たり、共有することで、今後の学びに繋がる目標設定を促すことができます。

《評価の方法》

評価をしていくにあたり、その子なりの頑張りや工夫、また、いかに考え、協力しながら探究していくことができたかを以下の点を重視して観察します。

【オープンエンド型の課題】

教師の問い掛け、声掛けなどにより、何らかの刺激を与え、考えるためのきっかけを作り、気付きを与え、子どもは自分なりの答えを見つけます。回答は短い言葉で伝えたり、絵や図にして表現しますが、正解はありません。どんな回答も自分なりの意見として受容されます。

【プロセス重視の評価】

全ての子どもに対して継続的な観察を行い、結果だけではなく、子ども自身の頑張りや工夫などのプロセスや、考えることによって導かれた行動、そして結果がたとえ失敗しても、満足感や幸福感を得られているかどうかを大切にします。更に、自分本位ではなく、他者といかに協力しあいながら探究活動を進めたかなどのプロセスを重視します。

【パフォーマンス評価】

園の評価基準に基づく、目的を持った課題や目の前の社会問題や本質的で重要な挑戦や課題を教師が子どもに提案し、子どもがその解決策を考えます。この課題では、問題に対するアプローチ方法が沢山あり、多様なスキルが必要とされます。

【観察】

全ての子どもに対する定期的な観察を行います。クラス全体に焦点を当ててから、個々の子どもや一つの活動に焦点を当てて観察していきます。多角的な視点から観察したり、自らも参加者として同じ目線からの観察をしたりもします。

《評価者の権利と責任》

【子ども】

- 探究活動における個の活動・ペア活動・グループ活動を通じ、子ども自身の学びの過程における達成度を見える化（頑張り表、写真、絵など）して、振り返り評価します。（自己評価）
- 子ども同士で、ユニットをとおして得た学びを確認しあう、認めあう、励ましあうなど、他者からの評価やフィードバックにより、改善点を見出すとともに、満足感を獲得し、自己肯定感を高め

ます。(子ども相互評価)

- 子どもが自己の学びを確認することで、自身の努力に気付き、達成感を得ることで、自信を持ち、次の探究への挑戦意欲を高め、自己効力感を獲得します。

【教師】

- 日頃の観察や子どもとのコミュニケーション、成果物(個人の作品、探究活動の内容をまとめたもの など)を通して、ユニットや園生活の中で見られた変化を評価します。
- 子ども姿の理解(子どもの事前知識、興味・関心、能力)をすることで、できるようになったこと、学んだことを確認し今後の子どもへの働きかけや接し方を改善します。
- 探究のプログラムにおいてのクラス運営、活動の展開、内容、環境設定、問題点、改善点など振り返り、より考えられた指導態勢を子ども達に提供します。
- 子どもの学習状況を学校コミュニティに共有し、他の教師や子ども達との協働を行います。
- 子どもの上達状況を見極めるために情報分析を行い、今後の学習のために有意義なフィードバックを提供します

【保護者】

- 園と家庭両方で過ごす中で見られた子どもの成長、変化や喜びを連絡帳やコドモンなどを用いて、共有することで、お互いの子どもに対する理解を深め幸福感を得ることが出来ます。
- 子どもの得手不得手、興味のあることないことなど、特性を知り、新たな可能性を拓けるための学習を支援する機会を提供します。(習い事、図書の購入など)

《評価のツール》

子どもの学びに関して集められた情報を協働的に分析、評価します。子どもの会話・コメント、絵や図、製作物や作品、動画や画像なども評価の根拠にします。

【ポートフォリオ】

ポートフォリオは、学習における子どもの取り組みを記録するものです。学習の過程と成果の両方を含んだ学びの証拠となる情報を収集し、保管します。ポートフォリオによって、子どもは教師や友だちと共に、改善すべき点だけでなく、自身の長所や成長を確認するための振り返りができ、個人の目標を設定することにも役立ちます。また、保護者にユニットの学習内容、指導計画をあらかじめ伝え、学習の成果を報告することが出来ます。教師が活動の内容を写真で記録したり、子ども自身が撮った写真を保管したり、絵日記や観察記録などの日記などによる学習過程を保管したりします。子ども自身の成長について考える機会を与えるために、ポートフォリオに何を残すかを選択、決定する際には教師のみならず、子どもも参加します。

【自己評価支援ツール】(self-assessment chart)

学習における子どもの到達の進捗を示す視覚表現であり、子どもと教師にとって非常に役立ちます。子どもが学習プロセスのどのあたりまで理解しているのか、達成しているのかを確認することができ、子ども達は自己改善に努め、挑戦し続けます。また、子ども同士で友達の得意不得意を認識し、励ましあい、受け入れあいながら、成長しあいます。

- 頑張りカード(跳び箱・縄跳び・鉄棒 など)
- 個の評価ボード(10の学習者像)
- クラス目標と達成度の掲示
- 言葉と感情の分類表
- おたより帳にハナマルやシール

【事例記録】

事例記録は、子どもの観察に基づく簡潔な記録です。クラス全体やグループ、個人に関する記録を残しておく、子どもが理解していることや誤って理解していることを教師が確認する時に役立ちます。事例記録は、体系的にまとめ、記録し、整理する必要があります。教師は、子どもの学習に関する振り返りや事例記録、また、面談記録や指導要録、を利用することで、次の学習を計画する時に、非常に貴重な資料となります。

《情報共有の方法》

本園では、評価の信頼性と正当性を高めるために教職員間の日常的な情報共有に努めます。また、幼稚園、子ども、保護者が子どもの成長に関する理解を共有できるよう、以下の方法で評価を含めた情報を発信します。

【行事への参加】

- 参観・運動会・発表会、親子遠足、卒園式 など
- 実際の子どもの探究活動の様子を見てもらう。

【コドモン(とねスタグラム)】

- 週に一回、子どもの園での様子を、文章や写真を添付して配信する。

【手紙】

- 学年だより、探究活動、英語活動の様子、お子さんの様子
- 新しく行うユニットの内容や、ユニット後の子ども達の成長や変化などを知らせる。
- お子さんの様子(学期に一度、園での子どもの様子を様々な分野で知らせ、家庭での様子も

教えていただく。)

【評価表】(report card)

- 1年の最後に、一年間で子どもがどんなことが出来るようになったかを伝える。(1年間のまとめ)

【面談・登降園時の会話】

- 教師と保護者で園での様子や、家庭での様子を共有する。
- 毎年5,6月に保護者と面談。また、必要な時は随時行うこともある。

【ポートフォリオ】

- ファイルに個々で作った作品や、ユニットごとに調べた内容、活動の写真などをまとめたものを入れる。
- 学期末に家に持ち帰る。
- 1年の最後に、ポートフォリオを使って自分で学びを保護者に説明する。

《評価基準》

評価の一貫性を保つため、以下を評価基準として用います。

【中村学園教育理念】

- 明るく
- 正しく
- 健やかに
- 学ぶ

【10の学習者像】

- 考える人
- 探究する人
- 思いやりのある人
- バランスのとれた人
- 振り返りができる人
- 知識のある人
- 信念をもつ人
- 心を開く人
- 挑戦する人

- コミュニケーションができる人

【PYPにおける学びの「基本要素」】

- 探究学習
- 概念学習
- 協働学習

【学習アプローチ(ATL)】

- 思考スキル
- コミュニケーションスキル
- リサーチスキル
- 社会的スキル
- 自己管理スキル

【文部科学省「幼稚園教育要領」】

- 健康な心と体
- 自立心
- 協同性
- 道徳性・規範意識の芽生え
- 社会生活と関わり
- 思考力の芽生え
- 自然との関わり・生命尊重
- 量・図形、文字等への関心・感覚
- 言葉による伝え合い
- 豊かな感性と表現

《参考文献》

- 若草幼稚園
- キッズ大陸よこはま
- Karugamo English School
- 東京学芸大学附属大泉小学校
- Abroad International school
- プログラム評価の手引き：2022年2月発行、2023年8月改訂の英語原本『Guide to programme evaluation』の日本語版 2022年5月発行、2023年8月改訂

《更新》

この評価方針は2年に一回、年度末に改訂し、学校コミュニティに周知します。

初 版 2023 年 11 月 8 日

最終更新日 2024 年 12 月 3 日

